

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

プロフィール 1970 年生まれ 49 歳 2 期目現職(無所属)
早稲田大学大学院 政治学研究科修了

全盲の視覚障害者を両親に持ち、障害者の
困窮する生活ぶりを多く目の当たりにし
てきた事が、政治を目指すきっかけに。

事務所連絡先 TEL: 0476-36-7799

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23(栄町役場前大山ビル 2F)

「見えない横断歩道」県内 1700 か所 年度内改修

歩行者の安全を脅かしかねない、見えない・見えにくい横断歩道。県警は、県内の横断歩道の総点検を行った結果、著しく摩耗している1,700 か所を確認し、年度内にその改修を行うこととしています。

●横断歩道一時停止率 8.5%、県内で 3740 件摘発

昨年 1 年間に県内で起きた交通事故の死者数は 186 人と、愛知県に次いで全国ワースト 2 位。全国の交通事故死者数が前年より 162 人(4.4%) 減となる中で、本県は前年より 32 人増、過去 5 年で最多と際立って悪い結果となっています。交通死者 186 人の事故に遭った状況では、歩行者 60 人、自動車乗車中が 60 人、二輪車乗車中 33 人など。特に 65 歳以上の高齢者の死者は 99 人と、全体の 5 割を超えるに至っています。

そのような中、県警がゼブラ・ストップ作戦と銘打ち強化しているのが、安全に横断歩道を渡れる環境整備と、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいるにもかかわらず停止しない車両への取締りです。

一昨年の例で言えば、歩行中の事故 2,923 人のうち、924 人が横断歩道を歩行中に死傷。また、JAF による調査結果によれば、全国の信号機のない横断歩道の一時停止率はわずか 8.5% (2017 年) であり、本県では昨年 8 月までの 8 か月間で、横断歩行者妨害違反で 3740 件が摘発されているのです。

●県内横断歩道の 13%、1,700 か所が「著しく摩耗」

一方、このゼブラ・ストップ作戦を効果的に進める上で欠かせないのが、摩耗した横断歩道の補修です。

車両は、横断待ちの歩行者がいる場合に横断歩道の手前で停止しなければなりません、肝心の横断歩道が摩耗してしまい、見えない・見えにくい状態のもの

が少なくありません。歩行者の通行が多い駅前や児童・生徒の利用が多い通学路でさえも、管理が行き届いていない、消えかかった横断歩道が散見されるのです。

こういった県議会での指摘に対し、県警は昨年 4 月から県内の横断歩道 2 万 1 千か所全てを確認する一斉点検を実施。昨年 8 月末時点で、点検を終えた 1 万 3 千か所のうち、実に 13% に相当する約 1,700 か所が著しく摩耗し見えづらい横断歩道であったことがわかっています。

県は今年度、当初予算で 1,750 か所、補正予算で 1,100 か所、計 2,850 か所の補修費用を計上。昨年 8 月時点で著しく摩耗とされた 1,700 か所の他、同 12 月に点検を終えた残り 8 千か所のうちの摩耗横断歩道についても、その補修を進めていくとしています。

悲惨な交通事故から歩行者を守るためには、横断歩道をはじめとする交通安全施設の機能が不可欠。来年度以降も引き続いての予算確保が必要です。また、身近に摩耗し見えにくくなっている横断歩道がありましたらお気軽にご連絡を。地域の県議会議員として、個別にしっかりと補修要望を行ってまいります。



見えにくい横断歩道(印西市内)

北環状線う回路「危険な」交差点解消へ 白井市神々廻

ニュータウン(NT)北環状線と、そのう回路として交通量が増える白井市道との「危険な」変形交差点。見通しが悪く、接触事故が発生している実態を指摘し、安全対策を求める岩井に対し、県は12月県議会にて改良事業に着手することを明らかにしました。

●2.2億円移転補償もさらなる補償を求められ泥沼化

県道189号、NT北環状線は、国道464号との交点となる印西市草深と白井市根を結ぶ一般県道。国道464号のう回路になるとともに、地域住民の生活道路として期待されるのですが、白井市清戸の一部区間については未だ開通の目途が立っていません。



↑複雑な交差点の現状
交差点改良イメージ→



回路として利用される白井市道との変形交差点です。

同交差点では、中心的な流れとなっているNT北環状線と白井市道との接続が複雑であることに加え、下り坂となっている市道から車両がスピードに乗って進入しがち。特に白井市方面からの右左折に危険を伴う状況にあります。実際、車両同士の接触事故が多く発生しているといえます。NT北環状線の全線開通までの仮の状態であるとはいえ、その開通時期が見通せない以上、県は道路管理者として必要な安全対策を講じるべきなのです。

●31年度に予算化 早くて来年春の供用開始見込み

9月県議会に続き、12月県議会・常任委員会にてこの問題を取り上げ、早急な対策を求める岩井に対し、県は交差点改良に着手すると回答。具体的には、印西方面への白井市道と白井方面へのNT北環状線の接続を優先する形状(上右図)に変更し、印西から白井への主たる車両の流れの円滑化を図るというものです。

予算計上は来年度から。必要な土地取得を行いながら、早ければ来年3月までに供用を開始させる見通しです。同交差点改良の早期完成はもちろん、NT北環状線の早期全線開通についても、引き続き求めてまいります。

●白井市道から下り坂 接触事故も多く発生

現地でさらに問題となっているのが、地元住民や交差点利用者から「危険」との声が上がる、NT北環状線のう

ニュータウン北環状線が 開通しない理由

